

【全体概要】

日本なしは、本県を代表する園芸作物で、大型選果場を有する大規模産地や庭先直売を中心とした多様な産地がある。しかし、いずれの産地も「幸水」に偏重した品種構成にあり、作業の集中による品質・収量への影響や経営規模拡大の阻害要因となっている。また、担い手の高齢化による廃園や樹の老齢化に伴う生産力低下により、県内の産地は縮小傾向にある。

そこで、「幸水」とは熟期の異なる新品種の導入によって生産の安定化と新たな産地ブランド品種を育成するとともに、平易作業な樹形で作業の省力化が期待できるジョイント仕立て樹形の導入加速化を図り、樹園地の若返りと新たな担い手の確保に資する。

新品種・新技術等の概要

品種特性の把握

○検証品種

「はつまる」、「香麗」、「甘ひびき」、「秋麗」、「甘太」、「王秋」

○検証内容

- ・生育、果実品質特性と病虫害発生状況の把握
- ・市場評価の把握

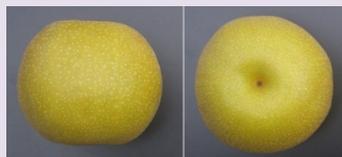
ジョイント仕立て樹における側枝管理方法の検討

○検証内容

- ・新梢管理方法と側枝形状、花芽率との関係
- ・側枝候補枝の確保に向けた追肥の効果検証

表 ジョイント仕立て樹における側枝の発生位置と花芽率との関係 (R2、%)

試験区	主枝基部	主枝中央部	主枝先端部
新梢誘引区	44.5	37.7	35.4
対照区 (無処理)	50.0	32.8	31.8



日本なし「香麗」(上図)及び「甘太」(下図)



ジョイント仕立て樹の新梢誘引

主な取組内容

【検討会】

- ・実証ほの設計・成績検討会(4月、2月)、ジョイント栽培研修会(6月)の開催

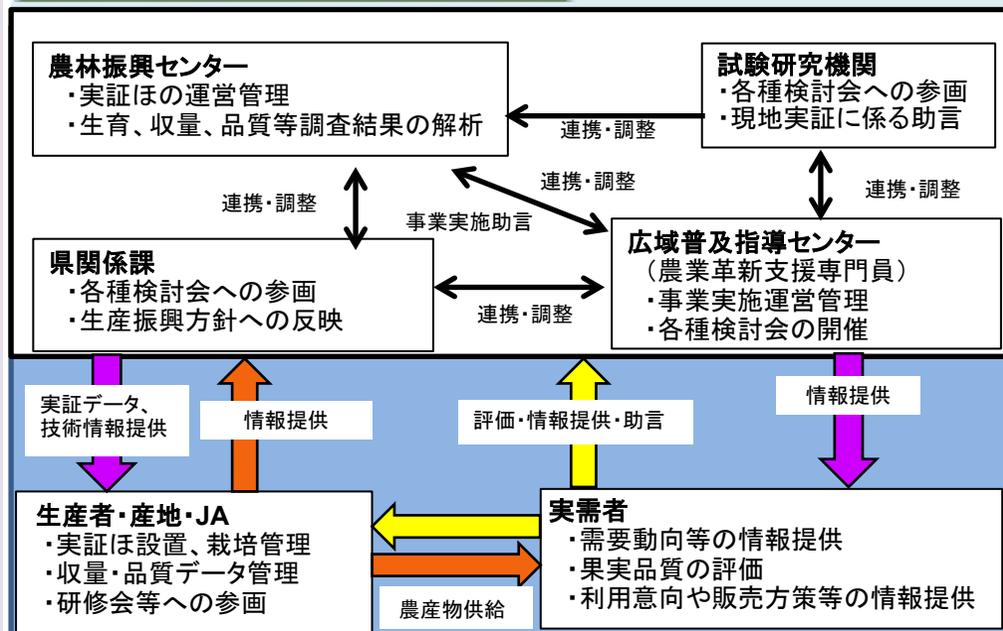
【技術の現地検証】

- ・品種特性の把握(4か所、6品種)
- ・ジョイント仕立て樹における側枝管理方法の検討(2か所)

【実需者ニーズの把握と先進地調査】

- ・試食検討会の開催(市場、7～10月)、新技術の先進地調査(埼玉県、7月)

実施体制図



課題と今後の対応

- ・供試6品種の特性について年次変動を把握するとともに、これら品種の市場性を明らかにする必要がある。このため、県内4か所に設置した実証ほにおける生育、品質特性を継続調査するとともに、県内市場関係者との試食検討会を開催し、各品種の市場性を評価する。
- ・ジョイント仕立て樹における側枝更新及び弱樹勢化に伴う側枝の安定確保が課題となっている。このため、「ほぞ切り」による側枝育成方法及び追肥による側枝発生方法について継続調査する。